

クロスコンプライアンスの生産者等への周知活動

環境負荷低減のクロスコンプライアンス（みどりチェック）の意義・必要性が、全ての生産者までしっかり伝わるようＪＡ広報誌等に掲載を依頼し、20ＪＡ中、14ＪＡで掲載

○ 施策分類

＜みどりの食料システム戦略＞

クロスコンプライアンスの生産者等への周知を図る。

○ きっかけ・背景、課題の把握

令和6年6月に、当省のみどり戦略グループから、全国の地域拠点に対し環境負荷低減のクロスコンプライアンス（みどりチェック）について指示があり、地域拠点において市町村、ＪＡの協力を得て生産者の方々にしっかり伝え理解していただくようにとのことであった。

○ 取組の内容

管内全ての市町村、ＪＡに趣旨説明を行うとともに、生産者へクロスコンプライアンスの意義・必要性を広く周知するために最も有効な手段として、ＪＡ組合員等へ配布されているＪＡ広報誌等へ掲載依頼を6月下旬から7月中旬にかけて行った。

具体的な依頼については、メール、電話及び対面により行い、広報誌誌面の広さを考慮し、数種類の原稿を作成し依頼時に提供することで対応しやすくした。

○ 効果・成果、今後の方向性

管内20ＪＡ全てに依頼を行い、掲載時期の違いはあったものの、14ＪＡの広報誌等へ掲載された。

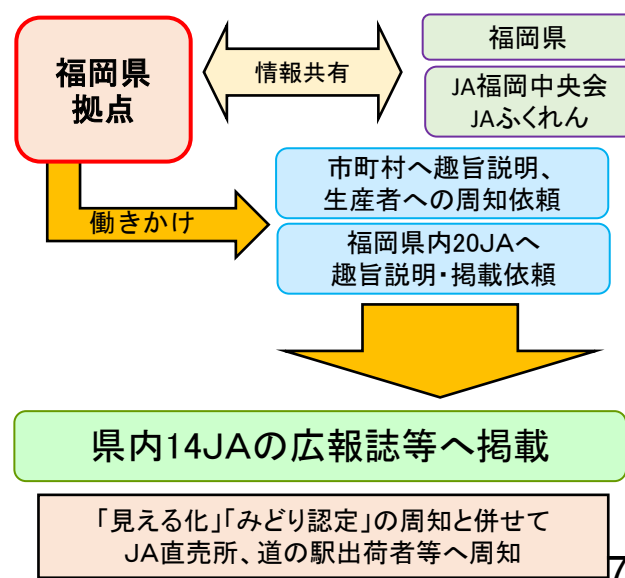
また、「見える化」の周知活動としてＪＡ販売所及び道の駅等を訪問した際、併せて出荷者に対してチラシの配布依頼を行った。

今後は、生産者が集まる研修会等において周知を行うなど、引き続き生産現場まで行き届く取組を行う。



JA福岡市広報誌「Jam 1月号」

体制図



福岡県との連携による、拠点職員向け「県単独事業研修会」を開催

福岡県職員から県拠点職員へ向けた、農業関連「福岡県単独事業研修会」を企画・実施。
福岡県農業を効果的に推進するため、拠点職員のスキルアップを目指す！

○ 施策分類

予算全般、その他

○ きっかけ・背景、課題の把握

福岡県農業の推進にあたり、日頃から関係機関及び農業者等に対し、農林水産関連施策の内容説明を行っているが、国の農林水産関連施策だけでなく、福岡県が単独で行う事業内容も併せて農業者等に周知できれば、より質の高い情報提供が可能となることから、本研修会を開催。

○ 取組の内容

研修会の趣旨を県に説明後、研修内容、開催時期等を対面で打ち合わせ。研修内容については、福岡県農業の概要をはじめ、予算編成スケジュールや農業施策の方向性、また農業者に人気の事業や地域の課題解決に不可欠な事業などについて重点的に説明を受けた。研修後は質問時間を十分に取り、県単独事業への理解を深めた。

○ 効果・成果、今後の方向性

これまで、県の単独事業に関する知識はほとんどなかったが、研修を受けたことで、県の農業施策の方向性や国の施策との違いなどについて理解でき、今後の農業者等との意見交換がより充実したものになることが期待される。今後は、福岡県農業のさらなる推進に寄与するため、研修の機会を毎年設け、拠点職員のスキルアップを目指す。

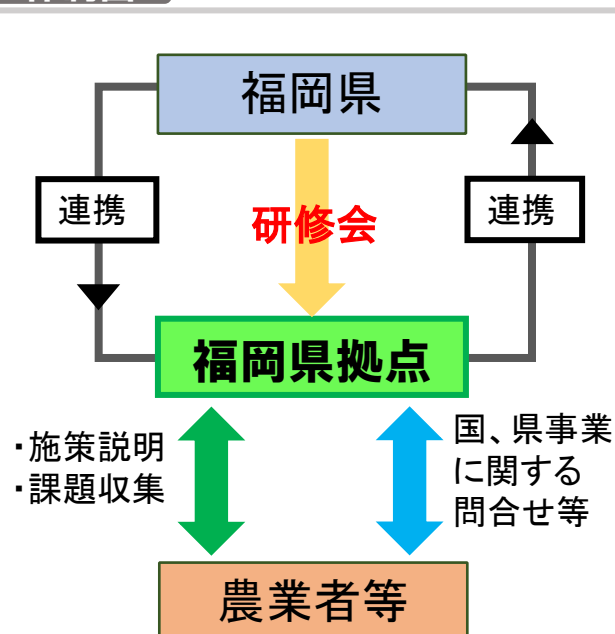


福岡県職員による研修会



研修会で質問する拠点職員

体制図



「結ぶプロジェクト」 拠点の持つつながりを活かし仲介機能を発揮

農業者と農業者等を結び、農業者発の意欲的な取組の結実に伴走する。
「現場と農政を結ぶ業務」を活かした発展的業務を日頃より模索。

○ 施策分類

担い手

○ きっかけ・背景、課題の把握

農業者からの前向きな発案及びそれに呼応する農業者の声がきっかけとなった。農業者の意欲的な取組における課題に対し、拠点が仲介・伴走支援する。主な事例は2点。

- ① 「高付加価値農産物を生産し、販売面も工夫する農業者で集まり座談会をしたい」という農業者からの要望。農業者が新たな取組に臨むに当たり、他農業者の体験談が大いに参考になること、農業者間のつながりが取組の後押しになることを認識した。
- ② 「耕種農家へ青刈りとうもろこしを軸とした連携を呼びかけたい。行政の設けた場であると効果的であり、機会をいただきたい」という畜産農家からの要望。行政の仲立ちにより、農業の発展に寄与する農業者間の結びつきが円滑化することを認識した。

○ 取組の内容

- ① 趣旨に合う農業者に座談会参加を打診し快諾され、また、拠点の仲介に対する評価と、取組の拡大を望む声が聞かれた。
- ② 「佐賀県大規模農業者と佐賀県拠点との意見交換会」において、畜産農家から耕種農家へ説明と協力要請の場を設置。双方との意見交換により情報収集、仲介を進めた。
 - ・ 農業者への仲介機能の発揮こそが拠点の強みを活かす伴走支援と定義し、拠点全体の取組とすべくプロジェクト化。ワーキングチームを発足し班を横断し効果的連携。

○ 効果・成果、今後の方向性

- ① 2月に「高付加価値農産物の適価販売に係る座談会」を実施。地域、作目、販売面の工夫に広がりのある気鋭の農業者が参集。相乗効果、今後の広がりが期待される。
- ② 耕種農家と畜産農家で新たな結びつきが生まれ、青刈りとうもろこしを軸とした畜連携に具体的な前進が見られた。
 - ・ 意見交換履歴、対応記録の蓄積をより有効に活用する方向性を模索し、また、市町村域、県域を越えた連携が可能な行政機関という特性を活かした発展的取組を目指す。

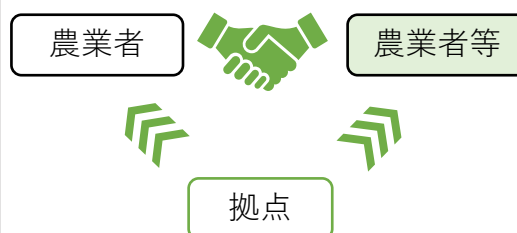


① 特色ある農業等に取り組む農業者の座談会、自由度高く様々な意見を交換



② 大手耕種農家に対し、酪農家から青刈りとうもろこしに関して状況と協力の呼びかけ

体制図



農業者発の前向きな取組を拠点が仲介

Z世代のみどり戦略勉強会の実践を生産者等とのマッチングでサポート

Z世代が食料システムの関係者と交流する勉強会を実施し、その後のイベントや学園祭での出展に際して、環境負荷低減や地産地消に配慮した取り組みとなるよう、生産者等とマッチング。

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略、地産地消、食育

○ きっかけ・背景、課題の把握

長崎女子短期大学及び活水女子大学から、それぞれ従来から取り組んでいるイベント等での食に関する出展に際し、みどり戦略の勉強会の成果となるよう、食材調達等について県拠点にサポートを求められた。

○ 取組の内容

長崎女子短期大学ではクッキーの米粉を、活水女子大学では学園祭でのランチ食材の調達について、県拠点がこれまでに様々な交流で把握した生産者、事業者、自治体等をマッチングした。

○ 効果・成果、今後の方向性

長崎女子短期大学では自然循環型農業を進める自治体と連携し、そこで作られた米粉のクッキーをオーガニックマルシェで販売した。

活水女子大学では長崎県の農産物等の地産地消はもとより、環境負荷低減の取り組みで生産された根菜類、しょうが、ソーセージ等を使用したランチを学園祭で提供した。

大学側は、従来の取組がみどり戦略に沿った深みのあるものになったことと生産者等との直接の結びつきができ、地域と連携した新たな取組を期待している。一方、生産者等は、教育機関に対する食材提供を通して生産現場の思いを伝えることができたことを非常に喜んでいた。

双方とも今後の継続を望んでいるためサポートしていきたい。

長崎女子短期大学



活水女子大学

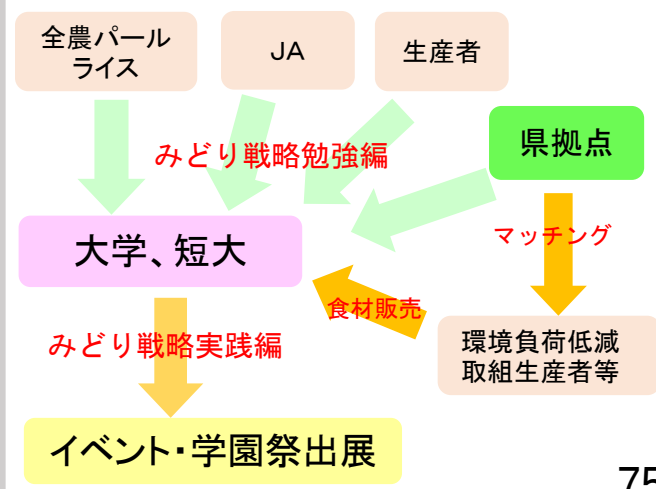


勉強編



実践編

体制図



食料システムチーム＋行政チームで、みえるらべる商品の販売促進

みえるらべるのカット野菜を販売するにあたり、生産者、加工業者、卸業者、小売店すべてに行政で周知活動を行って、ともに消費者への販売促進を行うことを意思統一。

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略、農政の方向性

○ きっかけ・背景、課題の把握

みえるらべるの取組拡大に向け、生産者の掘り起こしを行う中、積極的な意思を示した生産者グループに対して、農林水産本省・九州農政局本局（どちらもオンライン）、県、市と連携して説明会を実施。ラベル貼付商品をその意義とともに消費者まで届けるためには、生産者、加工業者、卸売業者、小売店（本社長崎県）という食料システム全体への働きかけが必要であることを互いの共通認識となるよう取り組むことにした。

○ 取組の内容

生産者、その出荷先である加工業者、卸売業者、小売店が一堂に会した中、県、九州農政局本局と連携してみえるらべるの趣旨説明。その後、店頭で消費者に対してみえるらべるの説明が実施できるよう小売店の店舗主任への勉強会を実施。

○ 効果・成果、今後の方向性

生産者及び事業者には、みえるらべる商品の販売が、今後の営業戦略としても効果的と捉えていただいた。また、小売店では長崎県、佐賀県の54店舗で販促ポップ掲示とともに販売を開始。

今後、みえるらべるの品目拡大に向けて、新たに取り組む生産者の掘り起こしと事業者の拡大、消費者への働きかけをその品目に関わる関係者チームで推進していく。



生産者グループ
への説明会



小売店、卸売業者、
加工業者への説明

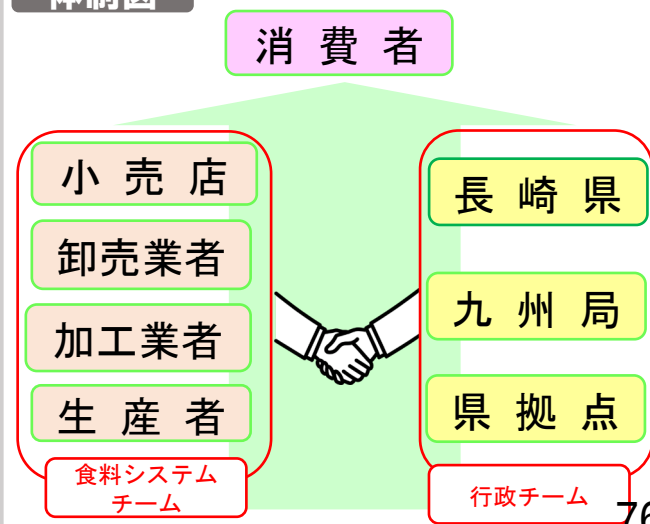


店舗主任会議での説明



店舗での販売

体制図



女性農業者交流会で農福連携を身近なものに

女性の活躍推進や交流を目的に開催している女性農業者交流会において、農福連携の理解を深めてもらう取組。

○ 施策分類

女性、農福連携、地産地消

○ きっかけ・背景、課題の把握

令和5年度に開催した女性農業者交流会で行ったアンケートの課題に「労働力不足」があったため、解決の一助として「農福連携」をテーマに設定。

○ 取組の内容

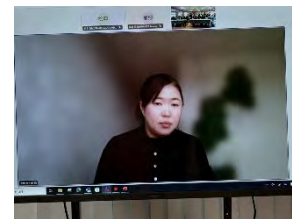
- ・ 交流会に参加する女性は、農業者だけでなく、農業・福祉関連に携わっている女性まで幅広く参加を呼び掛けた。
- ・ 開催に当たって、県、市及び関連団体の農業部門、福祉部門などに協力を得た。また、社会福祉法人等の要望も取り入れた。
- ・ 交流会においては、福祉側と農業者側のそれぞれの講師から農福連携の優良事例等を紹介。その後、参加者によるグループディスカッションを実施し、取組む際の課題等について、講師と活発な意見交換を行った。また、社会福祉法人が運営するレストランで働く障害者と交流を深めてもらうため、ランチミーティングを実施。ランチは、地元食材のスペシャルメニューを提供。

○ 効果・成果、今後の方向性

参加者から、「それぞれの立場がわかった」や「もう少し勉強したい」など全員から前向きな感想が寄せられた。県拠点は、女性農業者の声をもとにテーマ設定を行い、今後も交流会を継続していく。



福祉側：大村ノウフクネット
ワーク相川講師（長崎県）



農業者側：笠間農園笠間講師
（石川県・オンライン）



グループディスカッション



県・市職員等も参加



当日の参加者



障害者が働くレストラン
でランチミーティング

アンケート結果 19人回答（複数回答可）

福祉、農業者それぞれの立場がわかった	15人
もう少し勉強したい	12人
相談窓口がわかってよかった、ほか	6人

産・学・官で連携し、長崎大学経済学部生と食・農のグループワーク

大学側からの「生産現場の生の声を学生たちに聞かせてほしい」という要望を受け、農業経営における課題解決方法、販売戦略等のアイデアを生産者が直接学生から募集する講義を実施。

○ 施策分類

農政の方向性、環境、消費者対策

○ きっかけ・背景、課題の把握

長崎大学においてはプラネタリーヘルス（地球の健康）に資する人材輩出を目標としており、入学早々に関係する講義を受けているが、その後環境問題に関するシラバスがない。一方、県拠点は、食と農を専攻する学校以外のZ世代への働きかけが課題。

○ 取組の内容

大学側からの、学生に対して一方通行にならないよう、生産現場の声を直接聞く機会を提供し、農業経営について考えるきっかけ作りをしてほしいとの要望を受けて、2人の農業女子PJメンバーが、畜産、果樹経営について講演し、販売戦略等のアイデアを学生から募集。また、九州農政局から基本法等に関する情報を提供。

○ 効果・成果、今後の方向性

食・農専攻以外の教育機関のシラバスで、食・農について講演等実施したのは、九州農政局管内で初めて。

「産（2人の生産者）」は、学生目線の意見を聞くことができ、自らの経営戦略にも活かされると今後の継続を希望しており

「学（大学）」は、継続実施と農業現場でのフィールドワークの支援を要望している。「官（農政局）」としては、学生から食・農に関する意見を聞くことができ、学生からは生産者側の経営戦略を知るきっかけ作りとなった等の意見が得られた。



多彩なスピーカー



141名、30グループのディスカッションは壮観でした

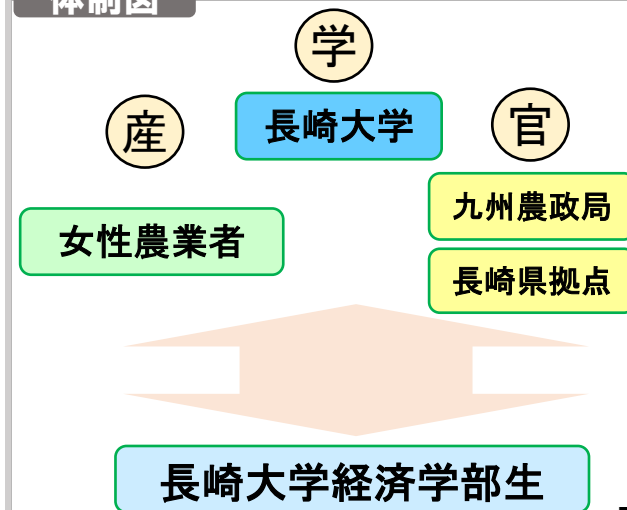


ディスカッションには講師も参加



産・学・官チーム

体制図



熊本県における耕畜連携に向けた取組支援

生産資材高騰の影響を受けて、地域での営農継続に向けた活動を主体的に進めている熊本県に対して、飼料・堆肥の広域流通の推進を図るため、九州農政局及び日本政策金融公庫（熊本支店）が連携して側面的支援を行い県域レベルでの耕畜連携の取組拡大を推進。

○ 施策分類

環境バイオマス・みどりの食料システム戦略、畜産・耕畜連携

○ きっかけ・背景、課題の把握

- 飼料・肥料原料等の輸入生産資材の価格高騰が続く中、国内資源の有効活用を進める耕畜連携は、重要な取組の一つとなっている。特に、熊本県では世界的大手半導体企業の進出もあり、県内畜産の主要地域への経営に大きな影響を及ぼすことが懸念されており、課題解決に向けた耕畜連携を推進する取組を行うこととした。

○ 取組の内容

- 熊本県と日本政策金融公庫及び局内関係課の協力により、昨年度から引き続いて第2回情報連絡会を開催し、現場の状況や支援策等に関する情報・意見交換を実施。（6月11日）
※第1回情報連絡会 令和6年1月29日
- 「令和6年度熊本県における耕畜連携公開セミナー」オンライン開催。全国各地から152名参加。（8月7日）

○ 効果・成果、今後の方向性

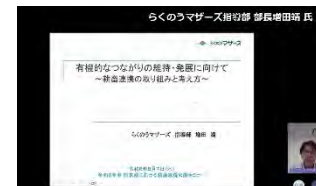
- セミナーでは、熊本県拠点及び関係団体等の各講師から、耕畜連携に関する情報提供・取組事例等の説明（生産指導、種子開発、堆肥利用、マッチング）を受け、それぞれの取組を共有し広域流通に向けた機運醸成と取組拡大にむけて意見交換を行った。引き続き熊本県が進めている耕畜連携の取組について、関係機関と連携を図り取組みの支援を進める。



第2回情報交換会



令和6年度熊本県における
耕畜連携公開セミナー



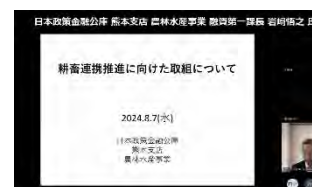
(有)みどりライセンサー 代表取締役 上原 義臣 氏



日本政策金融公庫 熊本支店 農林水産事業 融資第一課長 佐野 浩二 氏



(有)みどりライセンサー 代表 上原 義臣 氏



日本政策金融公庫 熊本支店 農林水産事業 融資第一課長 佐野 浩二 氏

関係団体の講師による耕畜連携に関する情報提供・取組事例紹介

支援内容

九州農政局

県拠点

協力 連携

局内関係課

支援

熊本県

支援

日本政策
金融公庫

協力

連携

「棚田地域をつなぐ意見交換会」を開催

「日本の棚田百選」松谷棚田（田舎の体験交流館さんがうら）と「つなぐ棚田遺産」峰棚田（峰中山間地集落協定）との棚田振興に向けた取組みや、棚田保全の課題、運営等について意見交換を行い、取組推進や課題解決に向けた取組を実施。

○ 施策分類

農村振興、棚田地域振興関係

○ きっかけ・背景、課題の把握

- 山都町との意見交換を計画する際に、山都町農村振興課から紹介を受け峰棚田と意見交換。
- 峰棚田地域の現状と課題（生産条件が厳しい、収量が少なく加えて単作で交付金が受けられず所得が低い、労働力不足等）を把握し、課題の解決に向けて、県拠点とも交流があり、田植えなど多くのイベントに活発に取り組んでいる松谷棚田と情報交換することとなった。

○ 取組の内容

- 意見交換に向け、峰棚田の課題等や松谷棚田からの提案等について事前の打ち合わせを行う。（7月～8月）
- 峰棚田、松谷棚田と熊本県拠点をWEB（Teams）で結び、意見交換を開催。（9月12日）

○ 効果・成果、今後の方向性

- 九州農政局農村振興部から、棚田地域の振興及び中山間地域等直接支払制度の情報提供を行い、課題の解決に向けた活発な意見交換が行われ峰棚田からは、「参考となる意見を多数いただいた。」との感想があった。
- 今後は、他の棚田地域を含めた意見交換を企画し、棚田振興を支援するための取組を進める。

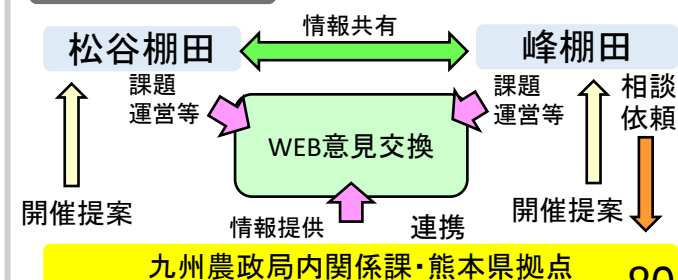
意見交換会

松谷棚田会場

峰棚田会場



支援内容



インフルエンサーと連携した「みどり戦略」の理解醸成活動

インフルエンサー（農業者）と連携した活動で、調達、生産、加工・流通、消費の各段階における多様な者への「みどり戦略」に対する理解促進と行動変容を目指す

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略

○ 課題の把握

大分県拠点ではこれまで勉強会を軸にみどり戦略の普及・啓発で理解促進と行動変容を目指してきたが、関係機関や関心のある者の参加により毎回盛況である反面、幅広い周知が図れているとは言い難く、行政からの発信では届きにくい層への普及が課題であった。

○ 取組の内容

SNSの影響力に着目し、自身がSNS発信を行う農業者である4組6名を“おおいた「みどり戦略」オフィシャルインフルエンサー”に委嘱。それぞれのツールを使った情報発信で「みどり戦略」の理解促進に向けた周知活動への協力を依頼。

○ 効果・成果、今後の方向性

委嘱式をマスコミ5社が報道。NHKニュースや地元新聞でも掲載。インフルエンサーは農作業等で忙しい中、無償であるにも関わらず、投稿やイベント参加など意欲的に活動。令和7年1月末現在、投稿数はYouTube38件、Instagram31件。視聴数は約8.9万回以上。視聴者からは様々な気づきや意見が寄せられており、「みどり戦略」を知らない人達の「知るきっかけ」に寄与している。

インフルエンサー活動には期待が高く、来年度も協力を依頼予定。特に、Z世代の行動変容に向けたコンテンツの充実が課題。



SNSでの発信の様子

【5月31日NHKニュースでの報道】

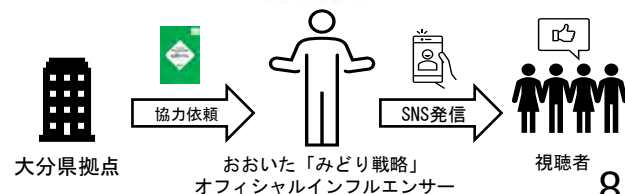


【1月23日今日新聞掲載】



マスコミ報道の紹介

体制図
(イメージ図)



延岡市「一日農林水産省」を開催

令和6年11月19日、国の最新の施策・動向等に関する情報提供を行うとともに、市内の農業者等との意見交換の場を設け、現場と国の農政を結ぶ機会として「一日農林水産省」を開催。

○ 施策分類

その他（その他）

○ きっかけ・背景

延岡市長から「市内の農業者等から、国に対し意見や要望、現状等を直接伝えることで、今後の地域農政の活性化に繋がる」と強い要望を受けて開催。

○ 取組の内容

開催まで、市担当者と対面打合わせを3回実施して準備を進め、開催案内や参加者募集は、市SNSやLINE、広報紙等を活用。開催間近に県内で家畜伝染病対策のため開催が危ぶまれたものの、関係機関の協力により防疫対策を実施し、延べ約90名が参加。

意見交換会は2部形式で行い、前半を全体会として、「改正食料・農業・農村基本法及びみどりの食料システム戦略」を県拠点から説明。

後半は分科会として、農産園芸と畜産の部門に分かれ、施策動向等について情報提供を行い、農業者等と活発な意見交換を行った。

○ 効果・成果、今後の方向性

開催後のアンケートでは、「次回開催時も参加したい」と8割を超える参加者から回答があった。一方で、参加者発言の機会（時間）を増やして欲しいなどの意見もあり、時間的配分を含めた開催方法の見直し等の課題も見えた。



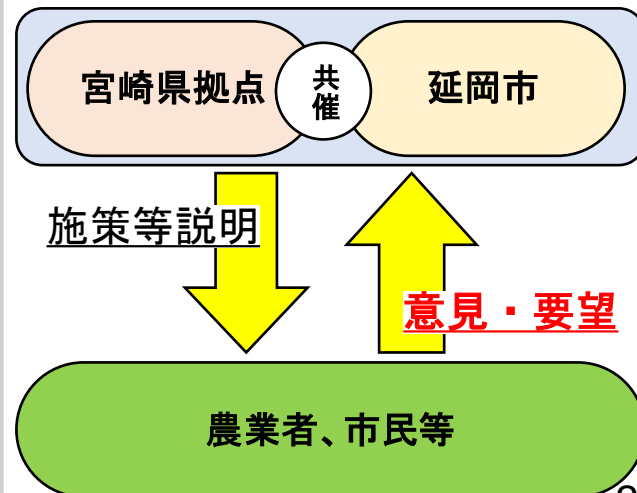
全体会

分科会

農産園芸分科会

畜産分科会

体制図



宮崎県内報道機関との懇談会を2年ぶりに開催

県内報道機関に対し、各種施策や県拠点が独自に収集している取組事例等を紹介することにより、県拠点と報道機関との「顔の見える関係」を構築。

○ 施策分類

広報

○ きっかけ・背景、課題の把握

県拠点の広報活動を強化するためには、報道機関との良好な関係を構築し、タイムリーな情報提供を行うことが重要。

本年度は改正食料・農業・農村基本法が6月に施行されるなど農政の大きな転換時期であることから、新たな施策を中心に情報提供し、意見交換を行う勉強会形式で開催（令和6年12月17日）。

○ 取組の内容

県拠点からの情報提供の内容については、事前にアンケートを実施。アンケート結果を踏まえ、①改正基本法のポイント、②みどり戦略、③スマート農業技術の活用状況、④輸出に関する取組、⑤鳥獣対策・ジビエの取組、⑥宮崎農業のすがた（統計データ）を情報提供。

○ 効果・成果、今後の方向性

意見交換では、各報道機関より活発な質問等があった。懇談会終了後のアンケートには「顔を合わせる関係ができた」、「県内の実情が理解できた」など今後の広報につながる前向きな意見があった。

今後も報道機関との良好な関係を継続し、新聞記事やニュースに取り上げられるよう積極的な情報提供の発信を行う。



体制図

宮崎県拠点

宮崎県内報道機関

・プレスリリース
・情報提供
・記事掲載の働きかけ 等

宮崎県民

＜県拠点から宮日新聞に提案し、記事になったもの＞

○「歩廊」～米粉冊子作成・配布（R6.6.2）

○「ひむかのひと」～参事官就任（R6.7.3）

○「九州農政局・北林局長に聞く」（R6.7.18）

＜TV番組放映＞

○「みどり戦略に係る農作業体験及び意見交換会」～綾町
UMK（R6.12.11） など

SNSを活用した情報発信を開始

農政について広く国民に関心を持ってもらうため、農政の動きや鹿児島県拠点の活動等をSNSで定期的に発信。

○ 施策分類

その他

○ きっかけ・背景、課題の把握

- ・ 現場からは、農政の情報が来るのが遅い。また、鹿児島県拠点を知らないなど厳しい声

○ 取組の内容

- ① SNSによる情報発信（農政の動き、統計公表、新規就農者の紹介、鹿児島県拠点の活動など）
- ② Teamsを活用したオンライン説明会の開催（食料・農業・農村白書、予算、みどりの食料システム戦略、スマート農業技術活用促進法など）

○ 効果・成果、今後の方向性

- ・ 鹿児島県拠点の知名度の高まり
- ・ SNS・HPに説明資料を掲載することで、現場説明がし易くなった（パソコン、スマホの画面を利用）
- ・ SNSフォロワー数（Instagram：129、Facebook：93、X：39）（令和7年3月4日現在）
- ・ 閲覧件数（Instagram：3,102、Facebook：2,132）（令和7年3月4日現在）

農林水産省九州農政局鹿児島県拠点ではSNSの公開ページを開設しました！

農政の動き、鹿児島県拠点の活動レポートなど、タイムリーに配信いたします！

Facebook

X(エックス)

Instagram

農林水産省九州農政局鹿児島県拠点 ホームページ

農林水産省九州農政局鹿児島県拠点 電話：099-222-5840（代表）

農林水産省九州農政局

JA女性役員登用拡大のため「女性活躍推進セミナー」開催

JAの女性役員等の登用を促進するため、北海道農政事務所本所と連携してセミナーを開催。オンラインでの配信を併用することで、全道に幅広く波及。

○ 施策分類

女性

○ きっかけ・背景、課題の把握

第5次男女共同参画計画では、2025年度までに女性役員が登用されていない組織を「0」にすることを目指しているが、北海道内のJAでは、女性役員が登用されていない組織が多く、目標達成に向けて更なる推進が必要な状況。一方、当拠点管内では、道内初の女性組合長の誕生や、女性役員が増加した事例があり、女性役員から情報交換のためのネットワークを構築してほしいとの要望があった。

○ 取組の内容

拠点内にPTを立ち上げ、本省経営局就農女性課、本所企画調整室と連携し、管内JA女性理事等4名を招聘したセミナーを開催。セミナーでは、各JAにおける役員登用の方法、経緯等を述べた後、役員として果たすべき役割や女性役員を増やすための方策をテーマにディスカッションした。

開催に当たり、支局長から各JA組合長等に対し、女性登用の状況を説明するとともに、本セミナーの参加を依頼した。

○ 効果・成果、今後の方向性

- ・会場約30名、オンライン約80回線（全国）が参加し、組合長等のJA役員にも多数視聴いただいた。
- ・登壇した女性役員から、個性や感性を生かすことの重要性などが発信されたことで、アンケートでは、7割以上の者が「大変満足」又は「満足」と回答。理由として、女性役員の生の声を聞いて重要性を再認識した等、前向きな声が寄せられた。
- ・今後は、当所ホームページに掲載した本セミナーの議事録及び録画データを活用して、全道のJAに波及させていく考え。



ディスカッション



登壇者の皆さん



セミナーの様態をホームページで発信

https://www.maff.go.jp/hokkaido/0129_1.html

86

環境負荷低減の取組を消費者にアピールするイベントを開催

環境負荷低減に取り組む生産者を紹介するとともに、消費者が「みえるらべる」等を貼付した農産物を手に取る機会を創出するイベント「みどりの食料システム戦略～環境にやさしい農産物を食べよう！～」を開催。

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略

○ きっかけ・背景、課題の把握

当拠点では、環境保全型農業を推進するため、イベントの開催や当該農業を実践する農業者を紹介する「道南 green farmer map」の配布などに取り組むとともに、食品スーパーの農産物バイヤーへのヒアリングを行ってきた。その中で、消費者からは「そもそも有機農産物のことが分からない」、「有機農産物の取扱い店が少ない」、バイヤーからは「消費者の理解がなければ取り扱うのは難しい」との意見があったことから、消費者に有機農業をはじめとする環境負荷低減の取組をより一層身近に感じてもらうことを目的にイベントを開催することとした。

○ 取組の内容

イベントでは、環境負荷低減に取り組む生産者の思いを伝えるインタビュー動画を上映したほか、有機JASマークや「みえるらべる」を貼付した農産物を販売するコーナーを設置。生産者の熱意に触れ、多様な種類の有機農産物等を手に取れるようにし、消費者に関心を持ってもらえるよう工夫した。

○ 効果・成果、今後の方向性

消費者に有機農産物等を幅広く紹介することができ、アンケートの結果、来場者の85.9%が「展示が分かりやすかった」、98.1%が「みえるらべる」が表示された農産物を「購入したい」と答えるなど、一定以上の効果があったと考えられる。

今後は、これまでにヒアリングを行った食品スーパーに対し、消費者の購買機会を増やしていくための働きかけをより一層進めていく。



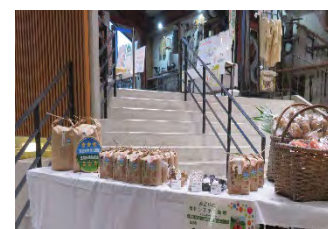
イベントの様子



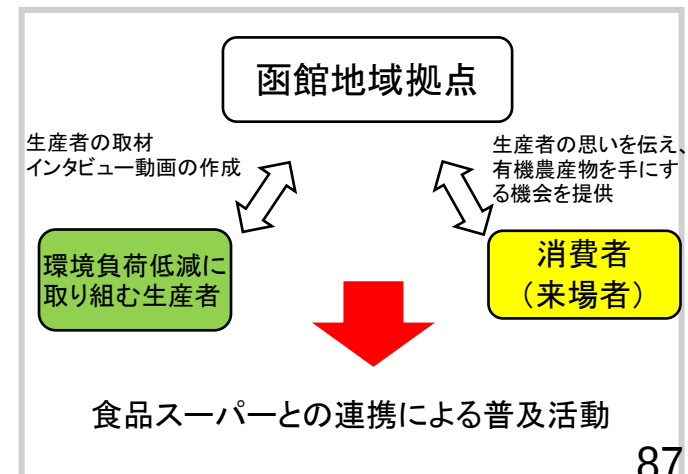
生産者のインタビュー動画



イベントの様子



「みえるらべる」が貼付された農産物の販売コーナー



「官庁フードドライブ」 合同庁舎職員の協力を得るための工夫

「官庁フードドライブ」を実施するにあたり、より多数の合同庁舎職員の協力を得るため、入居官庁全代表者が参加しての寄贈式を企画。

○ 施策分類

その他（新事業・食品産業）

○ きっかけ・背景、課題の把握

北海道農政事務所では令和5年度から北海道地方環境事務所と共催で食品ロス削減月間（10月）に「官庁フードドライブ※」を開催している。令和6年度は開催規模を拡大するために、本所だけでなく、各地域拠点でも取組を行うこととなった。

※官庁フードドライブとは官庁に勤務する職員が家庭から未利用の食品を持ち寄ってフードバンク活動団体等に寄付する取組

当拠点では、より多くの食品提供を得る方策として、合同庁舎に入居する他官庁の職員に当事者意識を持ってもらうため、全官庁の代表者が参加する寄贈式を行うことを発案。

○ 取組の内容

食品ロス削減の日（10月30日）に合わせて官庁フードドライブを実施し、全10官庁の職員から391点（60kg）の食品が集まった。寄贈式においては全官庁の代表者が出席し、フードバンク2団体に食品を寄贈した。また、本取組の情報発信を行うため、各報道機関に寄贈式の取材要請を行った。

○ 効果・成果、今後の方向性

寄贈式には、テレビ局1社、新聞社2社から取材があり、テレビのニュース番組では、拠点職員、フードバンク代表のメッセージも放映され、広くフードドライブの取組が認知されたと考える。



食品を持ち寄る様子



フードバンク団体と各官庁の代表者

寄贈官庁

北海道農政事務所旭川地域拠点
北海道開発局旭川開発建設部
札幌国税局旭川中税務署
札幌国税局業務センター旭川分室
旭川地方法務局
北海道労働局旭川労働基準監督署
北海道財務局旭川財務事務所
気象庁旭川地方気象台
札幌出入国在留管理局旭川出張所
北海道管区行政評価局旭川行政監視行政相談センタ

分析業務を通じてJAの中期計画策定を支援

QGISを活用した地図作成や、「地域の農業を見て・知って・活かすDB」のデータを提供することなどにより、JAの中期計画策定を支援。

○ 施策分類

統計

○ きっかけ・背景、課題の把握

当拠点では、地域の課題や現場のニーズを把握するため、JAや普及センター、市町村等の関係機関と意見交換を行っている。その中で、データ収集・分析業務を紹介をしたところ、JAあさひかわ職員から「JAの中期計画策定の参考としたいので、近郊も含めた農業集落ごとのデータを提供してほしい。」との要望があった。

○ 取組の内容

JAあさひかわとその周辺の3JAは、それぞれ管轄エリアが市町をまたいでいることから、QGIS※を使って市町村境界、JA境界がそれぞれ分かるようように地図上に表示させ、農林業センサスデータを載せた形で提供。

※地理空間情報データの閲覧、編集、分析機能を有するGIS（地理情報システム）無料ソフト

○ 効果・成果、今後の方向性

JAあさひかわが求める農業集落データに加え、集落ごと・JAごとにデータを可視化することにより、地域農業の現状把握及び将来予測に繋げることを可能とした。

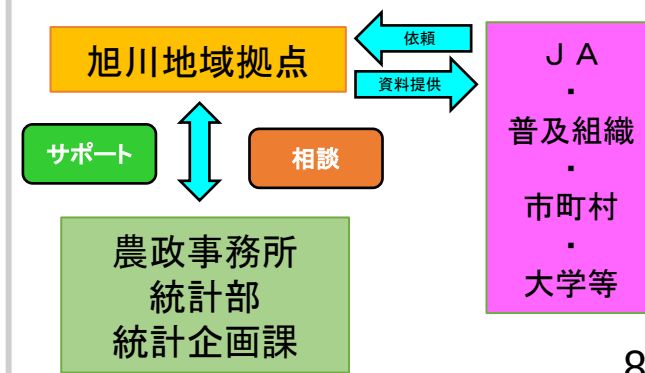
今後は、このようなデータ提供を他のJAにも積極的に提案し、各地域の課題解決につなげていく。



(図1) 複数市町にまたがった広域農協の管轄を地図上に表記

(図2)

データ分析業務の体制図



農業版BCPの普及拡大のため、拠点独自でハンドブックを作成し、生産者の防災体制の充実強化を図る

JA、町、拠点、生産者が協力・連携して農業版BCPハンドブック（JAしべちゃモデル）を作成。地域農業の維持・継続に向けて、防災・減災の充実強化を図る。

○ 施策分類

災害、収入保険

○ きっかけ・背景、課題の把握

農業版BCPの作成は、防災・減災への備えとして大変重要な取組だが、管内JA及び市町村では普及が進んでいない状況が見受けられた。

一方、JAしべちゃと標茶町では、農業者向けの災害時の水の確保対策として貯水タンク等の導入支援に向けて検討を進めていることを知り、当拠点では、農業者が災害の初動から有効活用できるよう独自に農業版BCPの携帯用ハンドブックを作成し、管内市町村及びJAを通じて農業者への普及拡大を図ることとした。さらに、標茶町をモデル地区として、JA、町、拠点の3者によるプロジェクトを設置し、当拠点で作成した携帯用ハンドブックを基に独自のハンドブック（JAしべちゃモデル）を作成し、事業継続及び防災体制の整備に取り組むことを提案した。

○ 取組の内容

当拠点では、令和6年9月に農業版BCPの携帯用ハンドブックを作成。また、JAしべちゃモデルの作成に当たり、主任以下プロジェクトチームを新たに設置し、JA及び町の関係者と3者で企画会議を3回実施した。企画、デザインなどアイデアを出し合い、意見や提案内容を協議するとともに、生産者の声を反映させるための話し合いの場を設けた。

そのほかに、拠点ホームページへの農業版BCP特設ページを開設、防災セミナーの開催等により、携帯用ハンドブックを活用した農業版BCPの普及拡大を図った。

○ 効果・成果、今後の方向性

約250戸の畜産農家のハンドブックとなる「JAしべちゃモデル」作成のための伴走支援により、JA・町・拠点・生産者が連携した「現場と共に解決する」取組となった。今後は、他のJAや市町村とも協力・連携し、携帯用ハンドブックを活用した農業版BCPの更なる普及拡大に取り組む。



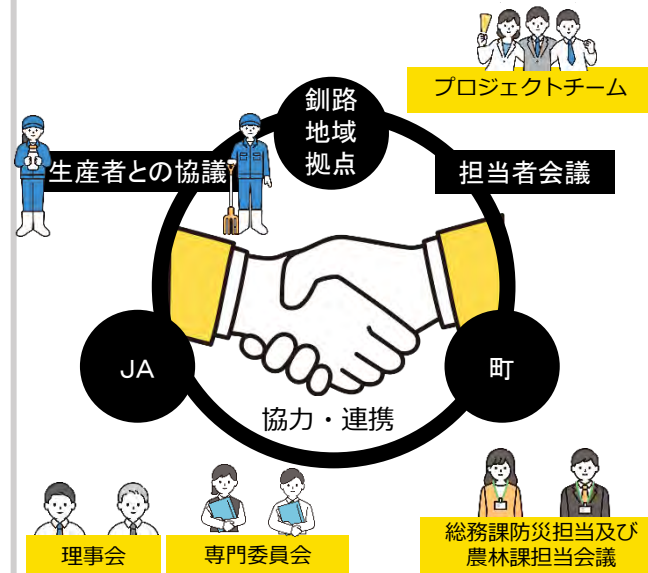
BCPハンドブック



生産者との協議の様子

体制図

BCPハンドブック（JAしべちゃモデル）作成プロジェクト



みどり戦略出前授業「生徒自らが考えるきっかけに」

みどりの食料システム戦略をテーマにした出前授業にコンセンサス（合意形成）ゲームを活用。グループ内での意見交換により相互理解を深め、問題解決策の検討や意見の合意を図る。

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略

○ きっかけ・背景、課題の把握

令和3年5月に策定した「みどりの食料システム戦略」に示された「2050年までに目指す姿」の実現に向け、これからの社会を担う若い世代（高校生）が気づきを得て、自ら取り組むきっかけとすることを目的に出前授業の開催を企画した。

○ 取組の内容

出前授業では、「みどりの食料システム戦略」の「農林水産業のCO₂ゼロエミッション」など11のKPIをテーマにグループワークを行った。1つの結論を導き出すコンセンサス（合意形成）ゲームを行い、生徒それぞれが重要と考えるKPIについて考えをまとめ、相手に伝えること、相手の考えを受け入れることに重点を置き取り組んだ。

○ 効果・成果、今後の方向性

他者の考えを聞き価値観の違いなどを理解した上で、グループで協力しながら合意形成に努めたことで、みどり戦略の理解及び今後の行動に向けたきっかけに繋がったと考える。今後の出前授業の実施に当たっても、継続的に対象者に合わせたものとなるよう工夫していく。

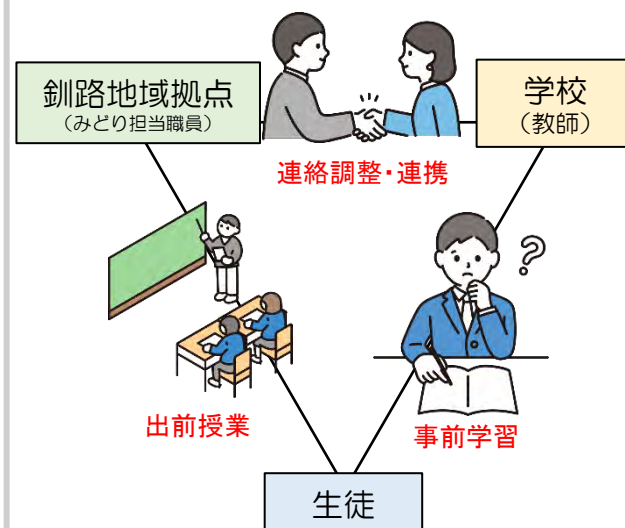


グループワークの様子



タブレット端末に自分の考えをまとめる

体制図



観て！読んで！地域の新規就農を紹介します

十勝地域における新規就農の促進を目指し、帯広地域拠点HP内の特設コンテンツで新規就農の事例記事と動画を公開し、道内他地域拠点と連携し情報を発信。

○ 施策分類

新規就農

○ きっかけ・背景

日本の食料基地である十勝地域においても、高齢化等により離農する生産者が多く、新規就農の促進は、地域の生産基盤や集落機能維持のためにも重要な課題。このような中、当拠点で令和6年1月に第三者継承で新規就農を実現した農業者との意見交換会を開催し、新規就農希望者への情報発信の必要性を実感。

○ 取組の内容

当拠点のHP内に特設コンテンツを開設し、新規就農者の声などの事例紹介を掲載。併せて、インタビュー動画を掲載することで、事例と動画が補完し合う形で情報を発信。また、先行して新規就農に関する特設コンテンツを開設していた札幌、北見地域拠点と相互リンクを行うことで、北海道内での就農促進を意識した取組を実施。

○ 効果・成果、今後の方向性

事例として取り上げた就農者は、地域に溶け込み、自治体やJA、集落の農業者から高い評価を得ている。このような就農者を取り上げることで、HP掲載内容が就農希望者にとってより関心深い内容となったと考えられる。今後も地域における新規就農の事例を取り上げ、将来の担い手となる人材の育成や就農希望者の掘り起こしに寄与し、新規就農を志す方への一助になるよう取組を進める。



輸出情報交換会「THE 輸出！」の開催で十勝地域の輸出を後押し

輸出情報交換会を年2回開催し、事業者の課題の見える化、継続的な情報発信及びフォローアップを行うことで輸出意識の向上や課題解決につなげ、十勝地域の輸出を促進。

○ 施策分類

輸出促進 農林水産物・食品の輸出額の拡大（2兆円「2025年まで」、5兆円「2030年まで」）

○ きっかけ・背景、課題の把握

十勝地域では、関係機関による輸出促進のためのイベントが頻繁に開催されているが、参加者は固定化され、必ずしも輸出の促進や新規事業者の掘り起こしに結びついていないのが実態。また、新規事業者にとっては説明会等に参加するも、「何から手を付けたらよいか」「輸出はハードルが高いのではないかな」等事業者毎に課題・悩みは様々であり、個別のフォローアップ等の必要性を実感。

○ 取組の内容

帯広地域拠点では、本所、日本政策金融公庫、北海道経済産業局等と連携して、2回にわたる輸出情報交換会を開催。令和6年8月に開催した回では、輸出専門家から、品目に応じた海外の情勢や輸出する上での基礎知識などを講演してもらい、事業者がこれから行うべきことの明確化を行った。また、輸出に挑戦したが、つまずきを感じている事業者等に対しては、個々の状況に応じたアドバイス（個別相談）を実施。さらには関係機関より、多方面からの支援体制を紹介・構築。令和7年3月に開催した回では、情報発信、課題の見える化、フォローアップ等を行うことで、輸出意識の向上や課題解決につなげ、十勝地域の輸出を促進。

○ 効果・成果、今後の方向性

輸出する品目や国、量等、事業者によって状況は様々。本会のフィードバックを行い、内容の充実を図り、今後も関係機関と連携し、情報発信の強化と個々のフォローアップを継続して実施していく。

【8/29「THE 輸出！」の様子】



外部専門家による講演

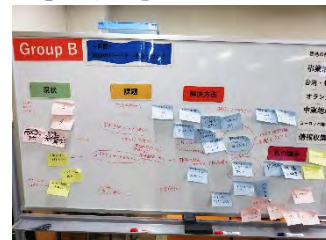


個別相談

【3/3「THE 輸出！2」の様子】

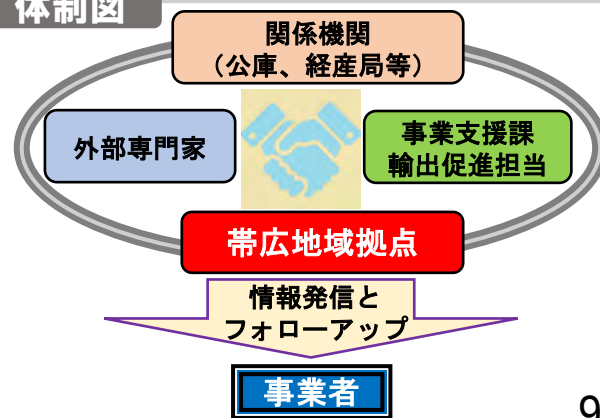


グループ座談会



グループ座談会で出された意見

体制図



有機農畜産物の生産者の情熱を報道関係者等につなぐ

有機農畜産物の生産と消費拡大を促すため、持続可能な土づくり等に取り組む生産者を訪問する現地視察会「知ってほしいだけなんだ！～あの人の土づくり、そして放牧酪農～」を開催。

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略

○ きっかけ・背景、課題の把握

有機農業の取組面積拡大には、有機農産物に対する消費者の理解醸成を行い、需要を喚起することが重要。このため、広く情報提供を行うことを目的に、報道関係者等を対象とした貸切バスによる現地視察を企画。

○ 取組の内容

報道機関（雑誌ライター含む）、大学教授、高校教諭、金融機関、観光事業者、行政機関職員24名の参加を得て、有機農業で小麦や大豆などを生産する畑作農家2戸と放牧酪農を実践する酪農家を視察。さらに視察先農家の有機小麦を原料に用いたパン販売店も視察し、消費行動までを意識した内容とした。

また、視察の題目を「知ってほしいだけなんだ！～あの人の土づくり、そして放牧酪農」とし、とにかく知ってほしい、伝えてほしいという気持ちが前面に伝わるよう工夫。

○ 効果・成果、今後の方向性

開催後、新聞2社、雑誌2稿、Webメディア1件に記事が掲載された。特に地元新聞では、大きく取り上げられたほか、これを契機に有機農業についての連載が開始されるなど、本取組によって、多くの消費者に情報を届けることができた。

引き続き、報道関係者等と接点を持ち、農業への関心を高めてもらうとともに、消費者への情報発信につなげていく。



有機栽培に関する意見交換



有機小麦を原料にしたパン店視察

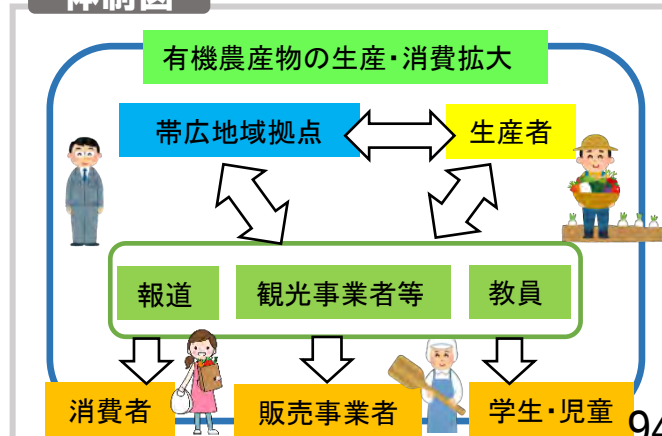


大豆収穫前に播種されて成長した秋まき小麦の生育の説明



山麓地帯にある放牧地で生産者と意見交換

体制図



農業者とのコラボで「みどり戦略PR紙芝居」を作成

農業者と連携し、子ども向けの「みどりの食料システム戦略PR紙芝居」を作成。ライブイベントでの読み語り等によりPRを実施。

○ 施策分類

みどりの食料システム戦略

○ きっかけ・背景、課題の把握

「みどりの食料システム戦略」の周知活動において、農業者やJAから、消費者の理解の必要性が指摘された。しかし、拠点では消費者との接点が少なく、既存資料では分かりやすく伝えることが難しかったため、PRが進んでいなかった。

○ 取組の内容

消費者向けに食料システムの一員としての役割を分かりやすく伝える内容の紙芝居を作成。

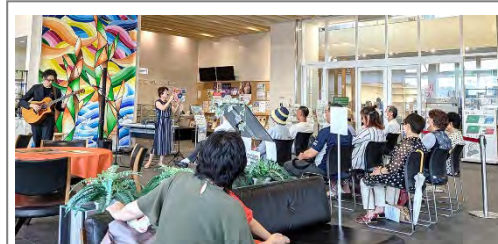
農業者の視点を取り入れた内容にするため、北見市で環境に配慮した農業にも取り組む遠藤夫妻に作成協力を依頼。双方でアイデアを持ち寄り、キャラクターと親子を登場人物に、問いかけで進むストーリーとし、子どもや農業をあまり知らない消費者にも興味を持ってもらえるよう工夫。

○ 効果・成果、今後の方向性

完成した紙芝居は農業者と拠点がお互いに活用。遠藤氏は自身のライブイベントで読み語りを3回実施し、参加者からは「本当は大切だけど見逃しがちなことを子どもたちに分かりやすく描かれたかわいらしい作品」との感想があった。また、拠点は紙芝居に音声と字幕を追加した動画を作成。今後は拠点における様々な機会での活用を検討していきたい。



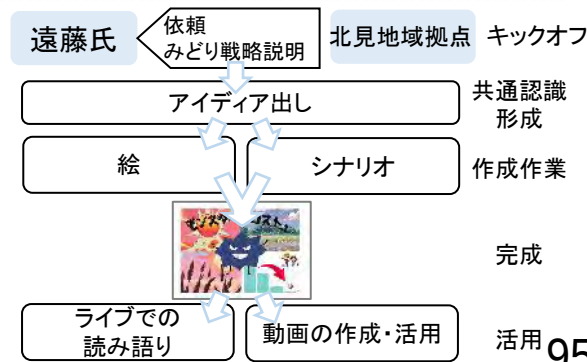
完成した紙芝居（一部抜粋）



遠藤氏による紙芝居の読み読みの様子



作成協力: 遠藤正人さん 幸枝さん(遠藤農場)
北見市の畑作農家。農業や化学肥料を減らしたじゃがいもの栽培も行う。正人さんはプロギタリスト、幸枝さんは農業に関連した紙芝居を作成し披露している。



青年農業者への主要施策の認知度調査と情報発信の取組

関係機関と連携し、オホーツク管内の青年農業者が集まるイベントにて、農政の主要施策についての認知度調査や情報発信を実施。

○ 施策分類

担い手

○ きっかけ・背景、課題の把握

オホーツク管内の青年農業者が集結する「オホーツクアグリフォーラム」において、本イベントに関与しているオホーツク総合振興局及び農業改良普及センターから、当拠点にブース出展の話があったことをきっかけに青年農業者等の主要施策への認知度や関心施策を調査するアンケートを実施することとした。

○ 取組の内容

参加する青年農業者を対象に、農政についての認知・関心度調査を実施し、その回答に応じて必要な情報を提供した。事後には調査データを分析し、その結果を拠点内で共有した。ブースに来訪してくれる人が少なく、回答を集めるのに苦労したが、職員による積極的な声かけにより、会場参加者のうち約3割から回答を得られた。

○ 効果・成果、今後の方向性

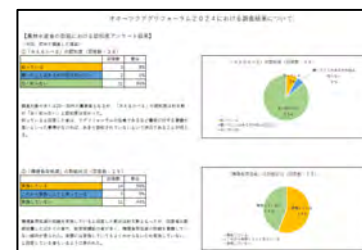
調査結果から、青年農業者の組織や地域への関わり方により主要施策の認知度や関心に違いが見られることが分かった。また、先方のニーズに応じた情報提供により関心を持ってもらう機会となった。今後も同取組の実施を継続し、蓄積したデータから農業者の関心等を分析することにより、必要とされる情報を効果的に発信できる手法の確立を目指す。



パンフレットコーナーの設置



認知度調査の実施



調査結果の分析

体制図

